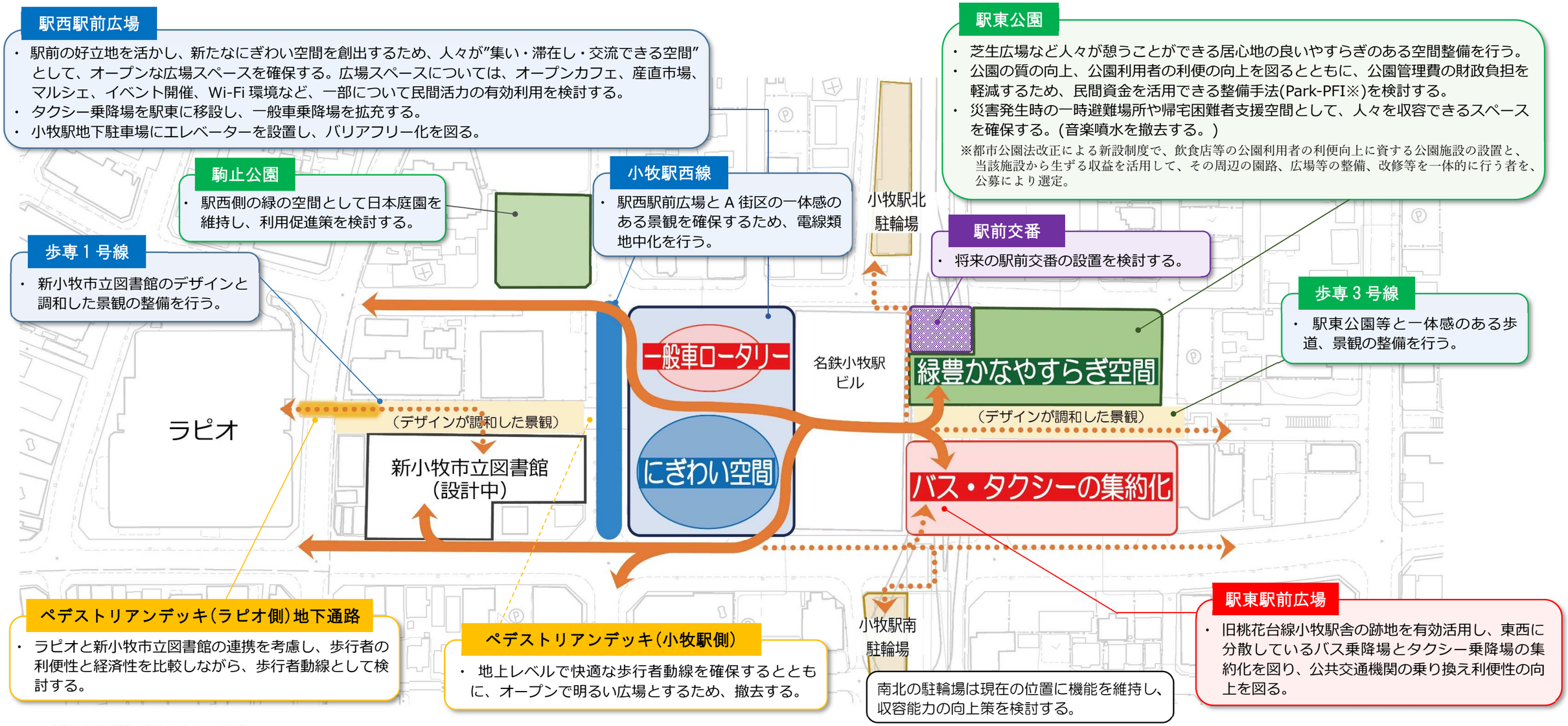
小牧駅前広場等整備基本構想（H30.3 策定）

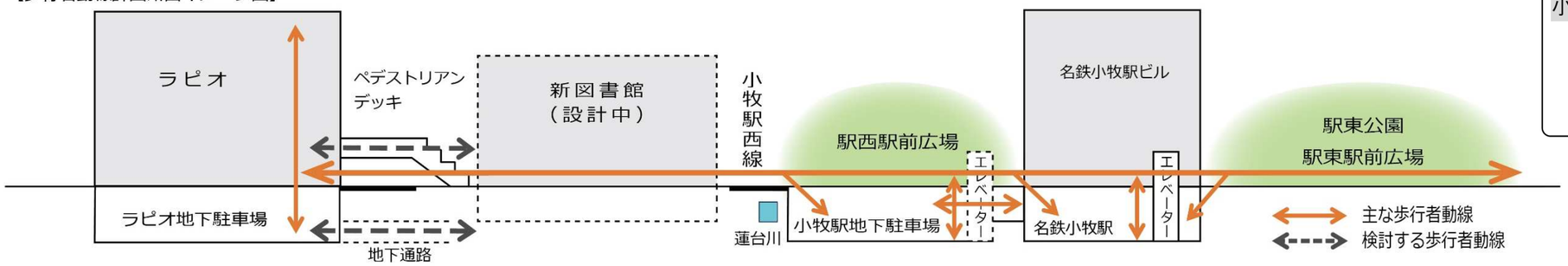
参考資料３

整備イメージ図

- 小牧駅前広場等の整備について、５つの基本方針に基づき、施設配置等のイメージ図を作成した。
- 駅西駅前広場及び駅東公園の整備については、民間活力を有効利用し、新たなにぎわい空間を創出するとともに、駅利用者の利便性向上につながる整備手法を検討する。
- 駅前整備にあたっては、夜間も安心して駅周辺の施設を利用できるように照明などを適切に配置し、明るさを確保する。また、防犯カメラの充実を検討する。



【歩行者動線計画断面イメージ図】



小牧駅周辺の市営駐車場

将来の駅周辺の駐車需給バランスを予測した結果、大規模な駐車場整備の必要性は少ないが、今後の駐車需要を注視しつつ、予測と乖離が生じた場合、改めて検証し、対応策を検討する。

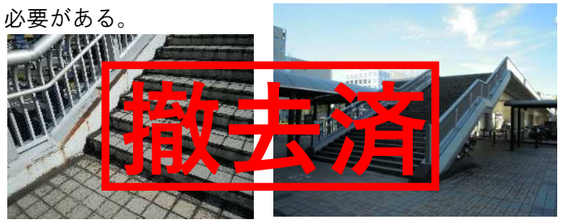
小牧駅周辺施設の現状と課題

ペデストリアンデッキ（ラピオ側）

・平成７年９月に完成した後、２２年が経過しており、施設が老朽化している。
・バリアフリー化されていない。
・歩行者数が少ない。
・ラピオとＡ街区に建設予定の新小牧市立図書館との連携を考慮し、歩行者動線として検討する必要がある。

ペデストリアンデッキ（小牧駅側）

・平成２年８月に完成した後、２７年が経過しており、施設が老朽化している。（雨漏りなど排水不良、タイル破損による修繕の増加など）
・バリアフリー化されていない。歩行者数が少ない。
・小牧駅西駅前広場の機能見直しに伴い、存廃を検討する必要がある。



駒止公園

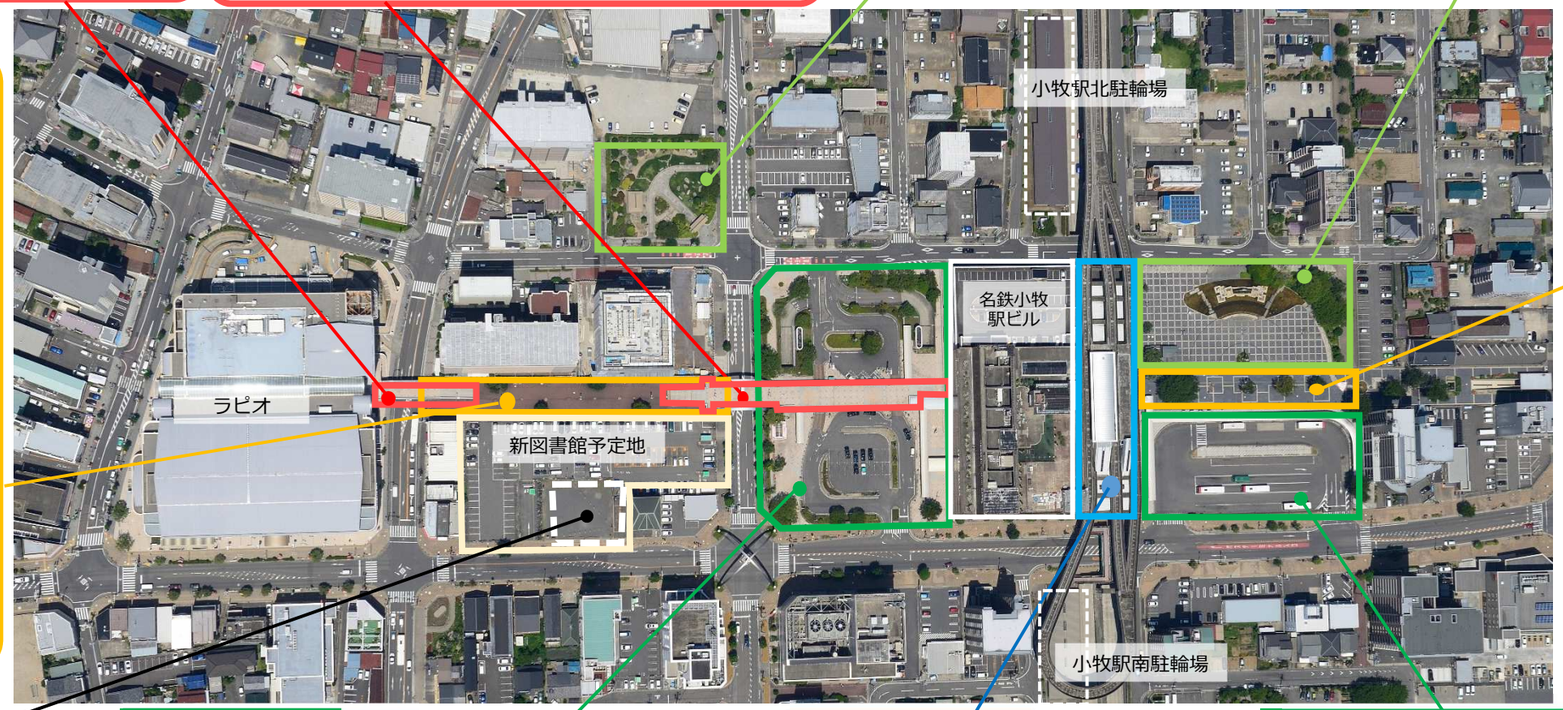
・日本庭園として整備されており、駅西側の貴重な緑の空間となっている。

駅東公園（メロディーパーク）

・平成２年１１月の供用開始から２７年が経過しており、音楽噴水、タイル、トイレ、時計塔や照明灯などの設備が老朽化している。
・音楽噴水は、部品の廃番など、更新費用が高額なため、休止中。

歩専１号線

・歩道舗装、照明灯、ベンチ、排水路などの施設が老朽化している。
・名鉄小牧駅からラピオまでの歩行者専用道路となっているが、歩行者は少ない。
・Ａ街区に建設予定の新小牧市立図書館のデザインと調和した景観の整備が望まれる。



歩専３号線

・経年劣化に伴い、タイル、照明灯、ベンチなどの修繕が増加傾向にある。
・駅東公園、小牧駅東駅前広場の再整備に併せた景観の整備が望まれる。

にぎわい広場

・平成夏まつり、小牧駅周辺イルミネーションなどのイベントで利用されている。
・新小牧市立図書館の建設によりイベント広場の機能がなくなるため、代替機能の確保が望まれる。

小牧駅西駅前広場

・平成２年１０月の供用開始から２７年が経過しており、タイル、道路舗装、シェルター、時計塔、照明灯、トイレなどの設備が老朽化している。
・一般車乗降場のスペースの確保など利便性向上が課題。
・広場北側に身体障がい者用の駐車スペースを設置。
・小牧駅地下駐車場がバリアフリー化されていない。

旧桃花台線小牧駅舎

・平成２７年８月に愛知県から桃花台線の全線撤去の方針が示された。
・小牧駅舎の跡地を有効利用した小牧駅東の再整備が望まれている。

小牧駅東駅前広場（バスターミナル）

・平成３年４月の供用開始から２６年が経過しており、タイル、道路舗装、シェルターなどの設備が老朽化している。
・名鉄小牧線やタクシーとの乗換えの利便性向上を図るなど、交通結節点機能の強化が課題。また、こまき巡回バスの運行コース及び本数の増加に対応することが必要である。